

鼻出血

鼻血(鼻出血)は、鼻の粘膜や血管が傷むことによって起こる出血です。突然、しかも大量に出血すると驚いてしまいますが、多くの場合病気が直接の原因ではなく、鼻への機械的刺激によるものです。あわてずに落ちついて対処すれば、治療を必要とすることもなく簡単に血は止まります。

監修：笠井耳鼻咽喉科クリニック
自由が丘診療室 院長 笠井 創先生

出血の場所と原因

左右の鼻の穴を隔てている壁を「鼻中隔」といいますが、鼻中隔の前方、鼻の穴の入り口から約1cm程度の、少し硬く感じられるところを「キーゼルバツハ部位」といいます。鼻血の90%以上が、ここからの出血です。この部分は粘膜が薄く、血管の表面がほとんど保護されていない状態で軟骨に接しています。さらに、細かい血管が集中して網目状に走っているので、わずかな外傷や刺激で容易に出血するのです。

鼻血の原因としてはまず、鼻の内外からの衝撃が挙げられます。

転んだりぶつかったりして外から刺激を受けたときも出血しますが、鼻をほじる癖のある子どもなどは、鼻の内側に傷

がついて出血します。一度傷ができるとそこがかさぶたになり、かゆみや違和感のためについ引かいてまた出血する、ということになります。子どもで鼻血を繰り返すのはほとんどがこのパターンでしょう。小さい子どもは無意識に、眠っているときでさえも鼻をいじってしまうこともあるので、爪を短く切りそろえておくことが大切です。遊んでいて、鼻の穴に異物を入れてしまったときなどにも出血します。

また風邪やアレルギー性鼻炎など、何らかの鼻疾患がある場合は、鼻血も出やすくなります。風邪をひいているときは鼻の粘膜も弱まっている上、強く頻繁に鼻をかむなど、鼻を傷つけることをしがちです。アレルギー性鼻炎の場合は、かゆみなどのため鼻をいじることが多くなります。また、常に鼻水が出ているため